

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度村学力調査から、全国平均を下回った結果だった。特に「話すこと・聞くこと」領域では、全国平均から11.5%下回った。問題別で見ると、「話し合いの内容を聞き取る」についても全国平均から5%下回っている。そのため、相手の話をよく聞いて理解し、それに対して自分の考えや思いを適切に話す力を高めていく必要がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 記載なし <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当日までに1分間スピーチの原稿を用意して、発表する。 ペアでの意見交換の場面をつくり、必然的に話す、聞く機会を設ける。 <p>【活用が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビューなどで、自分の用意した質問だけでなく、相手の回答に応じて、深堀する質問や話をつなげたりできるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全校朝会のある日の授業内で、校長先生の話 요약して書く時間を設ける。話を聞く必要感や必然性を設け、ポイントを絞って聞く習慣を付ける。 ② 毎授業の5分程度、ペアで質問者と回答者に分かれて話し続ける活動を行う。相手の話を理解し、一つの話題で話したり聞いたりし続ける力を養う。 	<p><検証方法></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師から、クイズ形式で校長先生の話聞いているか確かめる。教師側が提示した要点を8割以上抑えられているかを検証する。 ② ペアで相互評価を行う。3学期末までに、8割の児童が、5分間話し合い続けることができるか観察、記録し検証する。
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p>全校朝会のあとに校長先生がどんな話をしていたか3択クイズをすると9割以上の児童が正解した。学習の中でお互いの話を聞いて適切に意見を言える児童は8割程度になった。</p> <p><課題></p> <p>校長先生の話題は分かるが、内容について答えられる児童は5割、話し合いを5分以上続けられる児童は6割であったことから、相手の話を言葉としてではなく音として認識してしまっている児童もいる。語彙力不足や読解力の課題が影響していると考えられる。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語彙力を増やす。 短い文章を簡単に要約して伝える力を伸ばす。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

相手の話を聞いて理解し、自分の考えをもつことができる児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・令和6年度村学力調査から、領域全体で全国平均を下回った。特に、「地域や市の様子」領域で9.7%、「市の様子の移り変わり」領域で17%全国平均から下回っている。そのため、身近な地域や自分たちの住む自治体についての興味関心を高め、知識を増やしたり、自分事として考えたりしていく態度を身に付ける必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・教科書に載っている資料だけでなく、様々な統計資料や映像資料を活用し、読み取る練習をする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童】

- ・用語を確実におさえる。
- ・イラストや分かりやすい図、映像を資料として提示し、質問形式で読み取る。

【活用が必要な児童】

- ・教科書以外の資料からも情報を読み取る。
- ・既習事項や生活経験と関連付けて、考えられるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①授業の始めにおさらいとして、既習の用語や内容をクイズ形式でおさらいする。
- ②資料から読み取った情報を、ノートやICT機器を用いて、図式化するなどして整理する。
- ③ICT機器を使い、スライドを作成し授業の中で活用する。またクラスルームに資料を載せて、読み取る学習を進める。

＜検証方法＞

- ①クイズへの回答やワークテストの知識理解の結果が8割以上か検証する。
- ②ノートやICT機器の記録で情報を関連付けてまとめられているか検証する。
- ③ノートなどの学習記録の進捗や達成状況を検証する。

4. 検証結果(成果と課題)【年度末に記入する】

＜成果＞

授業初めのおさらいやクイズの結果、ワークテストの年間平均得点は9割以上になった。また、一年間の学習を通して、情報を読み取ってノートに分かりやすくまとめる力もついた。

＜課題＞

単元によっては身近さを感じづらい教材もあった。苦手な児童には、情報を限定的に渡したり、簡単な思考ツールを使わせたりと支援が必要だと考える。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・小笠原だかどうかという問いを投げかけ、身近なことからヒントを得て、考えられるようにする。
- ・適度な資料の情報量を児童に提供する。
- ・情報の整理の仕方の見本を提示する。

6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

自分たちの地域などの身近なことから、世界を広げて学んでいく児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度学力調査では、概ねの単元が全国平均前後であったが、「図形領域」に課題が見られた。 円の半径や直径など、算数用語の知識の定着が必要である。 かけ算の筆算や分数など、数のきまりや仕組みを理解する力を付ける必要がある。 図形の作図方法や、分度器、定規の正しい使い方を身に付ける必要がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題把握の場面で、解決方法の見通しがもてるよう、毎回の導入場面で既習事項を振り返る。 自力解決の場面で、自分の考えをノートに書く際に、「図」「式」「言葉」を活用し、説明できるようノート指導を行う。 対話活動の際に、十分な話し合いが展開できるよう、意図したグルーピングを行う。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎授業、前時のおさらいを丁寧に行う。「半径」や「底辺」など、算数用語に関しては、毎回その意味を確認する時間をとり、確実に理解・定着できるようにする。 定規や分度器など、算数用具を正しく使えるよう、ICT機器等を使いながら指導する。点と定規を確実にそろえたり、まっすぐ線をひいたりことを徹底する。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自力解決の時間を十分にとり、自分の考えたことをまとめて、自信をもって発表できるようにする。早く終わった児童の考えは教師がチェックすることで、自信をもって発表できるようにする。 ペア学習を取り入れ、自分の考えが友達に伝わるように発表する力を付ける。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①前時のおさらいと本時の振り返りを丁寧に行い、算数に関する「知識・技能」の定着を図る。</p> <p>②友達との交流を通して、自分の考えたことを整理し、学習したことの理解を確かなものとする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①ワークテストの知識と技能面は、1学期中に正答率8割を目指す。その後、10月までに思考面も正答率8割を目標とする。</p> <p>②毎時間の児童の振り返りから、わかったことや疑問点などをみとる。2学期中には前述したことを自分の言葉でノートに書き表せるようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <p>自分の考えを、既習事項を基にノートにまとめることができる。またそれを基に友達と考えを交流させ、自分の考えを正確に伝えたり、友達の考えを基に自分の考えをよりよくすることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>計算ミスなど、基礎的な学力には課題がある。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動や、学習の振り返りなど、自分の考えを表現したり、伝えたりする力は今後も高めていきたい。 計算練習や作図、分度器の使い方等、技能面は反復練習を行い、向上させる。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <p>友達と考えを交流させ、自分の考えをよりよくできる。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度村学力調査では、全体的に全校平均と同程度であった。しかし、「物質・エネルギー」領域では、全国平均より3%下回った。特に「風やゴムの働き」で9.8%、「磁石の性質」で4.5%と全国平均を下回っている。そのため、科学的事象について、現象の起こる仕組みや性質の知識を定着させる必要がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要感をもたせるために、「なぜ？」を引き出す導入の工夫を行う。 予想と理由を分けて考えることで、「難しい」という考えをなくすようにする。 思考を整理するために、ノートに明確に自分の考えを書き表せるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体物を準備して、興味や関心を高めたり、実感を伴った理解を促したりできるようにする。 ICT機器を使った学習補充を行って理解を深めさせる。 <p>【活用が必要な児童への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予想を考えるときに、既習事項や生活経験を根拠に考えられるようにする。 実験や観察の結果をもとに、問題と結び付けて結論を自分の言葉で考えられるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①授業の始めにおさらいとして、スライドを用意し、既習の用語や内容をクイズ形式でおさらいする。</p> <p>②問題を発見し、予想し、考察する主体的な問題解決学習を展開する。</p> <p>③ICT機器を使って図や写真、動画などを見て調べたり、理解を深めたりできるように授業の中で活用する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ノートやプレテスト、ワークテストの知識・理解で8割以上の結果になるか検証する。</p> <p>②ノートやワークシートの記録から検証する。</p> <p>③ノートの記録やプレテストの結果から検証する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p>年間のワークテストの平均点は89点であった。問題解決型の学習の流れが定着した。</p> <p><課題></p> <p>生物分野においては、小笠原と日本の一般的な事象に違いがあるため、理解することが難しい児童が多かった。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の用語や事象を単元の間は、毎回おさらいしたことで、知識の定着を図れる。 生物分野では、写真や動画の資料を活用すると実感が持てる。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <p>生活経験や既習事項をもとに科学的事象について疑問を持ち、考えられる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 音楽科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。 ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・歌唱や器楽の技能の習得状況が十分な児童とそうでない児童の差が激しく、二極化している。 ・感じ取った曲想と音楽の構造を結びつけ、表現に生かしていくことが苦手な児童が多い。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵譜などを用いて曲想の感じ取りを深めたり、それを生かした表現をしたりすることができるようにする。 ・一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行う。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <p>【基礎基本が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。 ・ICT機器及び教材を用いて、自らの学習状況に合わせた学習の仕方を選択できるようにする。 <p>【活用が必要な児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜範奏をして表現の工夫のヒントを示し、児童が表現のレパートリーを増やせるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①知覚したことと感受したことをワークシートに記述し、表現に生かせるようにする。単語例・文例での支援も行う。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。範唱（範奏）にはICT機器も活用する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、曲想の感じ取りや演奏の工夫を深めることができたか確かめる。7割の児童が曲想を捉え、表現に対する思いや意図をもてるようにする。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なりズムと音程で表現できることを目指す。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①知覚したことと感受したことをワークシートに記述し、表現に生かせるようにする。単語例・文例での支援も行う。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。範唱（範奏）にはICT機器も活用する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、曲想の感じ取りや演奏の工夫を深めることができたか確かめる。7割の児童が曲想を捉え、表現に対する思いや意図をもてるようにする。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なりズムと音程で表現できることを目指す。</p>
<p><方策></p> <p>①知覚したことと感受したことをワークシートに記述し、表現に生かせるようにする。単語例・文例での支援も行う。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。範唱（範奏）にはICT機器も活用する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、曲想の感じ取りや演奏の工夫を深めることができたか確かめる。7割の児童が曲想を捉え、表現に対する思いや意図をもてるようにする。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なりズムと音程で表現できることを目指す。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・9割の児童が聴いた曲の曲想を自分なりの言葉で表すことができていた。 ・少人数での歌唱聴取は効果的であった。個別に到達度を把握し、その後の指導に生かすことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい音高で歌うことに課題のある児童が多い。音高を捉えることと、意識した高さで歌う技能的側面のどちらに課題があるか見極める必要がある。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想や歌詞の意味を捉える手段として、他教科と関連する教材を用いる、情景を身近な事象に置き換えるといった手立てが有効である。 ・捉えた曲想を表現に生かすため、様々な歌い方を試しながら、表現の幅を広げていく必要がある。 		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲のよさや面白さを表現に生かし、曲にふさわしい表現をすることができる児童。 			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生は扱うことのできる材料や用具も広がり、多様な試みが見られるようになる。新しく目にする材料や道具との出会いを大切にしつつ、自分の思いにあった表し方を工夫できるよう、様々な試みを広げるなどして構想する力をつける。 ・様々な技法や表現方法を体験して、工夫して表現する力をさらに高める。 ・得意な発想方法だけではなく、様々なアイデアの出し方や表現の深め方があることを知り、さらに発想の広がりをもたせる。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた技能を繰り返し使える機会を増やし、定着を図る。 ・工夫している児童の作品、様々な参考作品や考え方などを紹介する。 ・材料や道具などの使い方で工夫できるところや組み合わせでできることなどを確認する。 ・アイデアスケッチ、ワークシートなどを活用してアイデアを広げる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や道具などの使い方を掲示や ICT 機器を活用して確認し、試せる場を設定する。 ・児童の作品紹介を紹介したり、題材のテーマ設定などを工夫したりして、様々なアイデアの出し方や表現の深め方にふれる。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>① 掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行い、十分に試せる場を設定する。</p> <p>② 題材のテーマ設定などにかたよりにないように計画を立て、導入などでそのねらいをしっかりと伝える。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>① 児童や作品の観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。 1学期に基本的な技能を観察し、以降支援が必要な児童には適宜支援を行っていく。</p> <p>② 児童や作品、ワークシートの観察。全児童が毎回の授業でねらいを理解し、様々なテーマ設定などにふれられるようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な材料や道具の扱い方を掲示や ICT を活用することにより正しく扱うことができていた。 ・テーマにそって様々な工夫や発想をすることができていた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的に材料や道具を扱える力をさらに伸ばしていく。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる基本的な材料や道具の扱い方の定着のために掲示や ICT などを活用して取り組んでいく。 ・限定的なテーマなどにしすぎて、児童の発想が制限されないようにする。
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <p>様々な技法や表現方法を活用して、工夫して表現できる児童。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 体育科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が基本的な動作や運動の技能を身に付けるために、運動の目的や方法を理解させるとともに、繰り返しの練習の時間を確保する必要がある。 ・単に運動を行うだけでなく、児童が自分の動きを理解し、修正するためのフィードバックが求められる。 ・授業では、運動に対する興味や意欲を持続させることが課題である。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、参考になる映像と自分の動きを比較することで違いを具体的に見付けられるようにする。 ・学習カードを用いて、自分の課題から次の学習のめあてを設定させるようにする。技の習得をしたり勝利したりするために効率的な方法を思考する過程を通じ、『わかる』ことの重要性を振り返り、実感させる。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「わかる」だけでなく「できる」を実感するまでには時間がかかるため、途中で意欲を失わないよう、ゲーム形式や仲間との協力・競争など、楽しさを取り入れた指導を行っている。また、達成度に応じた褒める場面を設け、児童の自信を育てている。 ・教師が個々の動きを観察し、具体的な改善点をフィードバックしている。また、児童自身が自分の運動を振り返り、改善点を見付けるための時間を設けている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈方策〉</p> <p>①少し高度な技術も取り入れた運動メニューを用意し、児童の進度に合わせて個別にチャレンジできる内容を設定。グループごとの目標は、個人技と協力技の両方をバランスよく設定し、目標に向かって進む姿勢を育む。「器械運動」</p> <p>②運動内容に応じた段階的な目標を設定し、達成感を持てるよう工夫する。フィードバックは具体的な改善点を伝え、自己評価の時間も取り入れることで、児童が自分の成長を自覚できるようにする。「器械運動、走・跳の運動」</p> <p>③戦略性のあるゲームや役割分担を取り入れ、協力しながら目標を達成する体験を増やす。勝敗にこだわりすぎないよう、努力やチームワークを評価するシステムを強化し、児童のやる気を引き出す。「全領域」</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈検証方法〉</p> <p>①児童の運動能力向上の変化を定期的に記録し、各児童が設定された目標を達成できたかを評価。また、授業後のアンケートを通じて児童の満足度や自己評価を収集。</p> <p>②児童の成功体験の頻度と、それに対する自己評価を授業後のフィードバックシートで確認。さらに、定期的な技術テストやパフォーマンスの変化を観察。</p> <p>③授業中の参加率や積極性の観察、アンケートや口頭でのフィードバックを通じて児童の意欲や楽しさを感じているかを評価。</p> </td> </tr> </table>		<p>〈方策〉</p> <p>①少し高度な技術も取り入れた運動メニューを用意し、児童の進度に合わせて個別にチャレンジできる内容を設定。グループごとの目標は、個人技と協力技の両方をバランスよく設定し、目標に向かって進む姿勢を育む。「器械運動」</p> <p>②運動内容に応じた段階的な目標を設定し、達成感を持てるよう工夫する。フィードバックは具体的な改善点を伝え、自己評価の時間も取り入れることで、児童が自分の成長を自覚できるようにする。「器械運動、走・跳の運動」</p> <p>③戦略性のあるゲームや役割分担を取り入れ、協力しながら目標を達成する体験を増やす。勝敗にこだわりすぎないよう、努力やチームワークを評価するシステムを強化し、児童のやる気を引き出す。「全領域」</p>	<p>〈検証方法〉</p> <p>①児童の運動能力向上の変化を定期的に記録し、各児童が設定された目標を達成できたかを評価。また、授業後のアンケートを通じて児童の満足度や自己評価を収集。</p> <p>②児童の成功体験の頻度と、それに対する自己評価を授業後のフィードバックシートで確認。さらに、定期的な技術テストやパフォーマンスの変化を観察。</p> <p>③授業中の参加率や積極性の観察、アンケートや口頭でのフィードバックを通じて児童の意欲や楽しさを感じているかを評価。</p>
<p>〈方策〉</p> <p>①少し高度な技術も取り入れた運動メニューを用意し、児童の進度に合わせて個別にチャレンジできる内容を設定。グループごとの目標は、個人技と協力技の両方をバランスよく設定し、目標に向かって進む姿勢を育む。「器械運動」</p> <p>②運動内容に応じた段階的な目標を設定し、達成感を持てるよう工夫する。フィードバックは具体的な改善点を伝え、自己評価の時間も取り入れることで、児童が自分の成長を自覚できるようにする。「器械運動、走・跳の運動」</p> <p>③戦略性のあるゲームや役割分担を取り入れ、協力しながら目標を達成する体験を増やす。勝敗にこだわりすぎないよう、努力やチームワークを評価するシステムを強化し、児童のやる気を引き出す。「全領域」</p>	<p>〈検証方法〉</p> <p>①児童の運動能力向上の変化を定期的に記録し、各児童が設定された目標を達成できたかを評価。また、授業後のアンケートを通じて児童の満足度や自己評価を収集。</p> <p>②児童の成功体験の頻度と、それに対する自己評価を授業後のフィードバックシートで確認。さらに、定期的な技術テストやパフォーマンスの変化を観察。</p> <p>③授業中の参加率や積極性の観察、アンケートや口頭でのフィードバックを通じて児童の意欲や楽しさを感じているかを評価。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器や学習カードを活用したことで、児童が自分の動きを客観的に振り返り、改善点を意識する機会が増えた。 ・段階的な目標設定により、運動の習得過程が明確になり、児童が成功体験を積み重ねながら自信をつける姿が見られた。 ・ゲーム形式や協力活動を取り入れたことで、児童が楽しみながら取り組み、意欲的に運動する姿勢が向上した。 ・戦略的なゲームや役割分担を導入することで、協力しながら運動を行う経験が増え、チームワークの意識が高まった。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な技術に挑戦する児童と基本的な動作の習得に時間を要する児童の間で、進度の差が大きくなり、個別のサポートがさらに必要である。 ・フィードバックの時間は確保したものの、児童が具体的な改善点を十分 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動能力の個人差に対応するため、児童ごとの目標をより柔軟に設定し、成功体験を積みやすい環境を整える。 ・フィードバックをより具体的で分かりやすいものにし、児童自身が次の行動につなげやすいよう工夫する。 ・運動の楽しさを継続して感じられるよう、協力活動をさらに充実させ、勝敗だけでなく過程を重視した評価方法を取り入れる。 ・ICT機器の活用をさらに発展させ、児童が自発的に自分の動きを振り返り、改善策を考えられるよう支援する。 		

<p>に理解し、次の行動につなげるには更なる工夫が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争や勝敗にこだわりすぎる児童もおり、努力やチームワークをより重視した評価方法の工夫が求められる。 ・ICT 機器の活用は効果が見られたが、活用頻度や児童自身の振り返りの質を高めるための支援が必要。 	
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の運動の成長を実感し、運動への意欲を持ち続けられるようになっている。 ・個々の課題を理解し、目標に向かって努力する姿勢を身につけている。 ・仲間と協力しながら運動を楽しみ、チームワークの大切さを理解している。 ・フィードバックを活用し、自ら動きを改善しようとする意識を持っている。 ・ICT 機器や学習カードを活用し、自分で振り返る習慣が身についている。 	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 道徳科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から、様々な場面や行動に価値づけを行い、柔軟な人間性を養えるようにする。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な場面から気持ちや行動の意図を考えさせ、イメージしやすくする。 ・思考を整理するために、ワークシートを活用する。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに、身近な場面や自分の経験をふり返り、価値項目への関心を高めるようにする。 ・ICT 機器を使って、友達の考えを共有し合い、共通点や相違点を見付け、価値に気付きやすいようにする。 ・イラストを用いて、場面を捉えやすいようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①身近な出来事から気持ちを想像させる。 ②毎時間自分の考えを書く時間を必ず確保する。 ③ ICT 機器を活用し、友達の考えと自分の考えを比べて、価値に気付くようにする。 	<p>＜検証方法＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①思考の流れが分かりやすい板書を意識し、記録した児童の考えから検証する。 ②感想にならないように、発問を工夫したうえで記入させ、ワークシートの記述から検証する。 ③ ICT 機器の記録とワークシートの記述をもとに検証する。
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <p>身近な出来事から学習に入ると、より主体的に取り組む児童が多いことが分かった。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの型を決め、ICT を活用したことで、多様な意見や価値観にふれることができた。児童も

<p>ICTで友達の考えを見られることで、共感・納得して自分の考えをもつことができる児童もいた。</p> <p><課題> 教材文の内容によっては、身近さを出すことが難しいこともある。 友達の考えを見ても、自分の考えを発信できない児童もいた。考えたことをどうアウトプットさせるかの支援が必要である。</p>	<p>自分の考えと比べて読んでいた。</p> <p>・</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】 自分の経験を振り返ったり想像したりして道徳的価値を高める児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第4学年 総合的な学習の時間〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小笠原ならではの文化や伝統に触れ、それらを継承していこうとする気持ちを養う。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目的意識」をもたせる。 ・学んだことを生かして、成果として発表（掲示）できる場面を設定する。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を活用し、現状を知ることで「課題意識」や「目的意識」をもって取り組めるようにする。 ・年間を通して、様々な発表形式を経験し、自分の学んだことをや考えをまとめ、発表できるようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①学習意欲を高めるために、導入でゴールを決め、具体的な目標をもてるようにする。</p> <p>②学習したことを継承していくためにできることを考え、実行できるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ワークシートを活用し、ゴールまでにどのような計画で動くか考えさせ、毎時間振り返りを書くことで活動の成果と課題を見えるようにする。</p> <p>②外部機関とも連携しながら、学んだことを表現できるような環境を整えていく。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p>初めから意欲は高いなかで、目標を持たせて学習を進めることで、目的から外れずに考えたり取り組んだりすることができた。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師への比重を減らし、教師主導で学習を進めていくように、打ち合わせ前にねらい、ゴール、進め方の計画をしっかりと立てておく。

<p><課題> 外部講師との打ち合わせを綿密に行う必要がある。 学習の進め方だけでなく、学校側から、学習のねらいやゴールを提案し、そこに関連する形で外部講師を活用していくべきである。</p>	<p>・課題解決できるような学習の流れになるように、外部講師にも理解と協力を得る。</p>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】 小笠原の文化や自然に触れて、大事にしていくために考える児童</p>	